

第10回 子どもをめぐる様々な課題と学校ソーシャルワーク

著者	山野 則子
引用	上方文化研究センター研究年報. 2008, 9, p.14-15
URL	http://hdl.handle.net/10466/11086

になり、布忍神社では牛頭を祭っていたが、牛頭の本地仏との関係から素盞鳴尊を祭る事になった。

5. 現 在

絵馬は大絵馬・小絵馬の二種に大別され、神仏分離により多くの絵馬を失ったが、有名な絵馬の6割は寺に残っている。当神社には約300年前の宮の風景を描いた布忍八景絵馬があり、350年前の奉納札は、府の文化財に指定されている。当神社に於いて、1988年から2000年にかけて絵馬展を行い、著名な人たちの現代絵馬を多く集めることが出来た。

絵馬に単に願いを書くだけでなく、自分だけの絵馬を作り奉納すると、後世の人が見たときに何かを感じるだろう。物に託して知らせるのは現代美術でも同じである。

第10回 子どもをめぐる様々な課題と学校ソーシャルワーク

12月20日

山野 則子 (大阪府立大学准教授)

子どもに関する課題には、児童虐待・フリーター・子育て不安などの問題がある。これらの問題に対して、皆さんにどんなことが出来るか一緒に考えていただけたらと思う。

1. 少子化がもたらしたもの

子育ての実態調査によると、20年前に比べて①お母さんの孤立感の倍増・②育児不安感が3倍・③自分の子どもが世話をする最初の体験という人が多い・④自信が持たなくて批判されるのを気にするなどの閉塞した状態が見え、これらが不適切養育へとつながる可能性がある。

それならば、何が不安感を下げられるかという、留守の間頼める人がいる、或は病院で代わりに受診してもらえる人がいるなどのつながりを地域で持つことである。

2005年に大阪は一番にスクールソーシャルワーカーを7校に配置した。そのときの実態はひとり親家庭8～28.9%、就学援助家庭22～50%、生活保護家庭1.4%～6%であり、福祉ニーズが高いけれども表面的に分かりにくく、当事者に認識がなくても、専門家にとってソーシャルワークが必要であると思える場合がある。そういう所へ介入していくのが社会福祉の領域である。子育てには、親が自信を持つこと、対処能力を形成すること、つながりを作るが必要であり、それには、支え合いをどのように作るかということ

を考え、また親のわがままな行動に見えることを理解しなければならない。そこにソーシャルワークの視点の導入が必要なのである。

2. ソーシャルワークとは

さまざまな生活上の困難な問題に対応していく福祉の実践家の事であり、福祉の理念に基づき福祉制度や福祉サービスを利用し、困っている問題に、本人や家族が対処できる能力を高めることである。スクールソーシャルワーカーは学校に拠点を置いて、ソーシャルワークを展開するワーカーである。問題の背後にあるものへのアプローチをし、子どもの行動面にだけ対応しても解決しない点を、先生方にも理解していただくように働きかける。そして、児童相談所などの機関の中に学校も組み入れて、市の体制として教育と福祉を一本化するシステムを作る。スクールソーシャルワークが始まってからは、福祉機関における相談率が約 10 倍に上昇している。従来のスクールカウンセラーとは方法論の違いがあり、スクールソーシャルワークは、本人の心に焦点を当てるのではなく、あくまで生活の視点で家族・学校・地域・本人に関係するすべての環境を考慮に入れて、それぞれの関係性、状況を見て他機関を含めて検討していく。今後広げて行きたいと思うので注目していただきたい。

まだまだ課題はあるが、今日聴いていただいた皆さんに、こういう動きがあることを知っていただき、お母さんが置かれている状況、子どもが置かれている状況を理解し、一人一人に何が出来るかを考えるきっかけになればと思う。

第 11 回 大阪府立大学史の試み

1 月 10 日

山東 功 (大阪府立大学講師)

この大阪府立大学を大学史との関連で見ると、これからどういうことを考えていけばいいのかということをお話していきたい。

1. 大学史とは何か

大学というものが、色々な制度的な変化に従って変わってきた。大学の歴史は何を見ている事になるかというと、大学史とは大学観の変遷史である。

大学史を考える時には、まず「創立」が大きな問題になる。学校教育法に基づく本大学の創立は 1949 年浪速大学の設置である。前身機関も含む創立という見方もあり、1883